

幸せな贈り物

チリ鉱山事故救助日誌

8月 (現地時間基準)

5日 サンホセ鉱山坑道の間道部分が落盤。33名の鉱夫、地下約700mに閉じ込められる



22日 生存確認の探索中「避難所で33名すべて生存」という手紙を発見

23日 マイクロスコープと穴を通して救護品を送る



26日 状態が良好な鉱夫の顔をTVで放映
30日 避難所に向けてはじめて30cmの大きさの穴を掘削開始 (A計画)

9月

5日 より早く掘削する理由で2つ目の掘削開始 (B計画)

19日 石油掘削用の最高の能力がある掘削機で掘削開始 (C計画)



10月

1日 政府、10日以内に救助作業が開始と発表

4日 ビニョラ大統領 10日中に鉱夫を地上に上げることができると希望すると要求

9日 B計画、作業所まで穴が成功に到着、13日救助が開始と発表



AFP 연합뉴스

「ノーベル希望賞」

チチチ リリリ

地下700メートル、私たちは生きている

8月5日からチリ鉱山で地下に閉じ込められている人々の探索作業を指揮した地形学者マカレナ・ヴァルデスがこのようなことを言いました。

「じつは、地中に閉じ込められた鉱夫を捜すことは、鉄砲で700メートル離れた蚊を打つようなものだ」この言葉のように、鉱夫たちを救出する事は可能性がとても薄かったのです。しかし、地下に閉じ込められてから69日22時間40分が経って、チリのサンホセ鉱山の鉱夫たちの救助ドラマが無事に幕を閉じました。33人の鉱夫が69日間の絶望的状況を耐えることができたのは、救われる

ことができる確かな夢と希望、信仰心があったからだと言われています。鉱夫たちは地下700m下で、リーダーの導きによって定刻に合わせて祈りと運動をして、規則的な生活をしたということです。最年長のゴメス(63)は、仲間たちが3人ずつで一組になって、お互いに祈りながら面倒を見るようにさせ、最後まで残ることを自ら申し出た作業班長ウルスア(54)は、ともすれば混乱と分裂しそうになる地下生活を組織的規律と人間愛がある空間にしたと伝えられました。特に、救われた鉱夫たちは同じTシャツを着ていましたが、これはチリ大学宣教会(CCC)が提供したTシャツで、その他に聖書、MP3とイエス様の行績が入った映画、CCCロゴと聖書聖句が刻まれたTシャツを着て、同じ心でお祈りしたということでした。Tシャツに書かれた文字には「主よ、ありがとうございます」と「地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである」という詩篇95篇4節のみことばが書かれていました。二番目に救出されたマリオ・セプルベタ(40)は「地下で神様とともにいたし、その方の手を握った」と「救われることを確信していた」と言い、最年少者であるジミー・サンチェス(19)は救われる数日前「ここにいる私たちは実は33人ではなく34人だ。神様がいつもそばにおられるからだ」ということを言ったりしました。

カーニバルリズム(Cannibalism)を越えた希望

彼らがはじめてからこんな信仰告白と希望を抱いていたわけではありません。坑道に閉じこめられた33人の中の一人リチャルド・ビジャロエル(27)は「生存の事実が地上に伝わった8月22日の前までの17日

間は、飢え死にする日を寂しく待った最悪の状況だった」と告白しながら「鉱夫たちは8月5日の崩壊直後、作業班長であるウルスア中心に開かれた会議で食べ物を分けて食べることに合議したが、24時間の間、スプーン半分のまぐろやサーモンだけで耐えなければならない現実は、ものすごい苦痛であった。採掘機械から流れ出た油が混ざって匂いがする水も生きるために飲まなければならなかった」と言いました。体重が12kgも落ちたと言ったビジャロエルは、17日間は目に見えるほどに飢える鉱夫たちの当時の状況に対して「自ら自分の身をかじる状態」と描きながら「死、絶望、言い争い、そして口には出さないが、振り払うことができないカーニバルリズム(人食いの風習)の誘惑まで…。生きるためには仲間を殺すこともできそうな殺気と恐怖が、まっ暗な地下700mのぎゅっと詰まった坑道の中をいっぱい満たした」と告白しました。22日に地上と連絡ができるようになって、生きることができるという希望が生じた後になってはじめて、カーニバルリズム(人食いの風習)が冗談の種になったし、ウルスアのリーダーシップを見て神様に祈るようになったと伝えました。

ノーベル希望賞「チチリリリ〜」 チリの鉱夫たちが見せてくれた希望に対する意志と勇気、信仰と忍耐は「ノーベル希望賞」を制定して受賞者に選定しても十分だという話が出るほどです。私たちとは何の関係もない彼らが、あがきながら、生と死、絶望と希望について見せてくれた、あまりにも貴い教訓と生きていることの意味は、これからどのように生きて行かなければならないかという解答を悟らせてくれます。ですから、彼らが真の「ノーベル希望賞」ではないのでしょうか。いまは、私たちの生活と世の中も、チリ鉱夫たちが地下700メートルの闇の中で、心から会うことを願った生き方と世の中にならなければなりません。葛藤と分裂ではなく、仲直りと愛、悲劇と絶望を越す勝利と希望の輝く生活にならなければならないでしょう。

神様が人間に与えられた希望の歌 聖書を見れば、人間に向けた神様の心が出ています。

「わたしはあなたがたのために立てている計画を

よく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ 29:11)。そして、その約束をそのまま成就してくださいました。「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。…「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」(ルカの福音書 2:10~14)。

ところで、今日も生活の現場では死と不幸の知らせが聞こえてきます。どうして人間は希望を忘れてしまった生活を送るのでしょうか。聖書はこのように語っています。水を離れた魚が水ではない他のどんなものでも満足することができないように、神様を離れた人間は、神様と出会い以外には、他のどんなものでも幸せではないのです。それは、私も知らない間に、人間を不幸にさせた根本的な背後にいるサタン(暗やみの勢力)と運命的な呪いと災いの下に置かれているからです。それで、神様は希望の道を自ら開いてくださったのです。聖書の約束どおりキリストを送ってくださって、人間の罪を担って十字架で死に、復活することによってサタンの勢力を打ちこわし、すべての罪と呪いを解決して、神様に会うことができる道を開いてくださいました(ヨハネの手紙第一 3:8、マタイの福音書 10:45、ヨハネの福音書 14:6)。この方が、すなわちキリストであるイエス様です。ですから、だれでもキリストとして来られたイエス様を信じて受け入れれば、すぐに神様の子どもになります。このとき、はじめて人間には聖書に約束されたすべての神様の祝福と真の希望がその人のものになります。

「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです」(詩篇 23:4)

「主イエスを信じれば救われます。
あなたは大事な人です。」



父の手紙



父の手紙 父が遠くにいる息子に手紙を送りました。緊急で重要な内容を最高級の便せんに記録して、信頼するしもべに持たせて、安全に、かつ大切に伝えました。ところが、その手紙を受けた息子が、父の手紙より手紙を持って来たしもべをもっと喜んでありがたいとあいさつして、もてなすことに一生けん命になりました。そして、父の手紙の内容より最高級の便せんに感嘆するのです。「これほど良い便せんがあったのか……」また、息子は父の字体を注意深く観察して、何の書体なのかと夢中になって考えることに没頭しました。ずいぶん長い間考えた息子は「愛する息子よ、元気にしているか！」という父のあいさつの言葉を読んで、感動、また感動して、ひとつのことに気をとられてしまって、手紙の本論はまともに読むこともできなかったのです。愚かな息子は手紙を送った父さんの心が入っている本論の内容を早く把握するより、便せん、字体、あいさつの言葉など、序論的にもっと大きい関心を置いてそこに感動していました。おもしろくて、こっけいな話ですが、私たちも時々このようなこっけいな姿になることがあります。

神様の手紙 聖書は神様が私たちの人間に送られた手紙です。今すぐ滅びから出てきて救われなさいという愛の手紙であり、死から出てきていのちを得なさいという希望の手紙であり、幸せの道、救いの道、いのちの道について説明する人生問題に対する解答を知らせてくれる手紙です。しかし、多くの人がこの手紙の本論と核心的な部分をよく分からずに誤解する姿を見るようになります。たくさん読んで、たくさん書いて覚えることまでするのに、そのみことばの主題が分からなくて、関心さえない姿は、父の手紙をもらって他のことにもっと関心ある愚かな息子のようです。

神様の手紙である聖書の核心は福音です。福音を説明しようと神様は 66 巻という膨大な内容を記録され、創世の時から末世までの時刻表の中で幾多の事件と人物を一貫した観点で解いて語っておられるのです。このような福音の核心はまさにイエス・キリストです。アダム以後にサタンにだまされて神様を離れて罪を犯したすべての人類が待つメシヤ、キリストが、まさにイエスで、その方が十字架で死んで復活することによって、私たちの人生の根本問題、すべての問題を永遠に解決されたということです。なにかの行為や水準や努力以前に、このイエス様を私の救い主であるキリストとして信じる時、救われるようになって、霊的ないのちを得て神様の子どもになるのですが、これは私によるのではなく、全面的な神様の恵みであり贈り物です。また、神様は救われた子どもに聖書のみことばを守って生きなさいと要求されるのではなく、神様のみことばを信じて行くことを願われます。みことばは神様のものであり、神様がなされることだからです。神様は愛です。その愛の本質を理解して、私のものとして味わうことによって、神様の子どもになる人生の本質と祝福を回復する恵みがあるように願います。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」(ヨハネの福音書 20:31)

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様、私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。

イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの權威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。ありがとうございます。

いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。

今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を權威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

たましいを 生かす



イラスト_キム・ジョン

コーヒー一杯

ある北からの脱出者が韓国へ来たとき、韓国文化には変なことが多いが、一番不思議なことは意味もなく、どんなところでも黒い水を飲むことだと言った。それは味も苦くて栄養価もなさそうだ、また、それは一杯に一食くらいの高くつくことに驚いたと言った。西洋でコーヒーは生活食品と言われているが、韓国では嗜好食品より優先されるコーヒーの大衆性が理解ができなくて、自分なりの考えを言ったようだった。彼の観察どおり、今日の韓国人の普通の対人関係やお客さん接待のとき、とにかく「何をお持ちしましょうか?」と言われたら、基本的に「コーヒー!」と言う。お茶は、お客さんに礼儀をもってさしあげなければならない飲み物だ。コーヒーはお湯さえあれば簡単に飲むことができるので、速さを好む韓国人の性質に合う手軽なお茶なので、コーヒーに夢中になるのではないかと思う。コーヒーを愛して楽しむ人が多いが、なかでもアメリカの小説家ガートルード・スタインは「コーヒーを飲む時が本当に良い。考える時間を与えるからだ。それは飲み物以上であり、生活に活力を与えるある現象だ。ある事件のように落ち着いていなければならない場所だが、それもどこか示すことができる位置ではなく、自分自身の中のある1ヶ所だ。コーヒーは時間を与えるが、しかし物理的な時間と言うのではなく、本来の自分になる機会を与えるという意味だ。だからもう一杯飲もう!」と言ったことがある。

はたして、私たちがコーヒーを選ぶのがこのようにコーヒー哲学を持ってコーヒーマニアになったかはどうかは分からないが、エンドルフィンを回るようにする辛い味の唐辛子のお茶が発展することができなかつたから、苦いコーヒーを甘くして飲むのかもしれない。アメリカの知人が韓国に来て、クリームと砂糖がいっぱい入ったコーヒーは健康に良くな

いと、豆をひいて出したコーヒーを飲むべきだと言った。彼は私にコーヒー豆をひいて飲むことができる製品を買って、コーヒー豆とともに持って来てくれた。これがどれほどありがたいことだろうか。

ほのかなコーヒーの香りが漂うコーヒー一杯を前において、少しの時間を持って考えることは、精神の健康に非常に良いことだ。しかし、もし漠然たる考えにとどまるその時間を、たましいの価値が分かる伝道者に与えたら、その人は地上最高の祝福の一番近くに人だ。人々は目と耳で確認できる考えにだけとどまるが、伝道者は過去の苦しみがどうして痛いようになるしかないのかに対する、その理由と現在の恐怖心と不安の意味が分かって、未来を開く知恵を知らせてくれることができる。多分、この手紙を渡された方も、伝道トラクトだとなんの意味もなく受けたかもしれない。この手紙を渡すその人が、もし知っている人か、知らない人でも、あなたのたましいに関心を持っているその人とともに暖かいコーヒー一杯を飲むことができたなら、それよりもっと良い事はないと思う。18世紀のフランスの政治家で外交官であるチャールズ・ド・モリステレはコーヒーについて「悪魔のように黒くて、地獄のように熱くて、天使のように純粋であり、愛のように甘ったるい」と言った。コーヒー一杯でやみを考え、苦しみを見つける人もいるかと思えば、コーヒー一杯で真の人生の意味を見つけて幸せを伝える人に会う甘い喜びも得ることができる。今、コーヒー一杯飲みませんか。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ